

別紙1

介護支援専門員「専門研修課程Ⅰ」 日程・会場・科目・講師・ねらい・内容

【集合研修】

日 程 ・ 会 場				指導 方法	研修科目	講 師	科目のねらい	研修内容
	新潟ユニゾンプラザ 多目的ホール	時 間						
第 1 日	7月19日(火)	9:15～9:30	15分		開講、挨拶、オリエンテーション	事務局		
		9:30～12:30	3時間	講義	①介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状	新潟県職員 駒見 幸子 燕市地域包括支援センターおおまがり金子朋行	介護保険制度の最新の動向や、地域包括ケアシステムの構築に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員として関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及びその家族を支援していくに当って、関連する制度等を理解する。	・介護保険制度の内容とその理由 ・地域包括ケアシステムについて ・社会資源
		13:15～17:15	4時間	講義	②ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実践	新潟白根総合病院 坂詰明広	実践を通じて感じた医療との連携や多職種協働に関する課題を踏まえ、今後の実践に向けて必要な知識・技術を理解する。	・他職種協働の実践における医療連携の必要性と重要性、課題と解決の方法 ・医療連携における情報収集、情報提供の際の留意点 ・在宅医療・介護の連携推進に係る事業概要
第 2 日	7月20日(水)	9:15～12:15	3時間	講義	③対人援助技術及び地域援助技術	新潟青陵大学 三浦 修	対人個別援助技術(ソーシャルケースワーク)と地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)の違いと役割を理解する。	・対人援助技術と地域援助技術について ・地域ケア会議について ・多職種連携の必要性とその活用と留意点
		13:00～15:00	2時間	講義	④ケアマネマネジメントの実践における倫理	堀之内在宅介護支援センター 角屋宗敬	ケアマネジメントを実践する上で感じた倫理的な課題を踏まえ、チームで対応していく際のチームアプローチの方法及び高齢者の権利を擁護する上で必要な制度等を理解する。	・倫理原則と葛藤 ・倫理的課題へのチームアプローチ ・成年後見人制度、高齢者虐待防止法

【地域研修】

日 程 ・ 会 場				指導 方法	研修科目	講 師	科目のねらい	研修内容
	朱鷺メッセ スノーホール	ハイブ長岡 特別会議室	時 間					
第 3 日	8月2日(火)	7月25(月)	9:15～12:15	3時間	講義・ 演習	燕市地域包括支援センターさわたり美寺ひろみ 新潟県職員 臼井 あずみ	介護支援専門員としての実践の振り返りを通じて、ケアマネジメントプロセスを再確認した上で、専門職としての自らの課題を理解する。	・ケアマネジメントプロセスにおける各項目の持つ意味と重要性 ・専門職として克服すべき課題等 ・担当事例の活用、ケアマネジメントの視点、発表、課題を認識、理解
			13:00～16:00	3時間		新潟青陵大学 三浦 修		
			9:15～12:15	3時間		東新潟病院 藤本 綾子 ケアポートすなやま 眞壁 泰子		
第 4 日	8月3日(水)	7月26(火)	9:15～12:15	3時間	講義・ 演習	訪問看護ステーションみつこうや 大橋 美和	リハビリテーションや福祉用具等の活用が有効な事例を用いて講義・演習を行うことにより、リハビリテーションや福祉用具等の活用に係る知識及びケアマネジメント手法を修得する。	・リハビリテーションについて ・福祉用具活用と住宅改修について ・リハビリテーションの実際 ・事例概要説明、事例の読み込み、共有化 ・事例の情報収集と課題分析、グループ発表
			13:00～16:00	3時間		燕市地域包括支援センターさわたり美寺 ひろみ		
			9:15～13:15	4時間		訪問看護ステーション協議会 ⑥-1 リハビリテーション・福祉用具の活用に関する事例		
第 5 日	8月4日(木)	7月27(水)	14:00～18:00	4時間	講義・ 演習	訪問看護ステーション協議会 ⑥-2 看取り等における看護サービス活用に関する事例	看護サービスの活用が必要な事例を用いて講義・演習を行うことにより、看護サービスの活用に係る知識及びケアマネジメント手法を修得する。	・看護サービスに関する知識 ・訪問看護計画との関連づけや看護職との連携方法 ・看取り、疼痛緩和 ・看取りにおける介護支援専門員の役割 ・経過における事例の変化、グループ発表
			9:15～13:15	4時間	講義・ 演習	ケアマネジメントの演習 ⑥-3 認知症に関する事例	認知症に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、認知症に関する知識及び認知症の要介護者等に有効なサービスを活用したケアマネジメント手法を修得する。	・基本的な理解、ケアマネジメントの各プロセスにおける留意点 ・演習 ・課題抽出、地域の社会資源の検討、多職種協働 ・複数ケアプランの検討、意見交換、グループ発表
			14:00～18:00	4時間	講義・ 演習	ケアマネジメントの演習 ⑥-4 入退院時等における医療との連携に関する事例	入退院時等における医療との連携に関する事例を用いて、講義・演習を行うことにより、医療との連携に必要な知識及び医療との連携を踏まえたケアマネジメント手法を修得する。	・疾患の特徴と対処法、の知識、感染予防の情報共有 ・医療との効果的な連携 ・演習①、感染予防の重要性 ・演習②、医療職との連携の課題 ・ネットワークを構築 ・医療機関側のルールや約束
第 6 日	8月17日(水)	8月8日(月)	9:15～13:15	4時間	講義・ 演習	みどり病院 阿部由美子 地域包括支援センターわしま・てらどまり 小林 美砂子	認知症に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、認知症に関する知識及び認知症の要介護者等に有効なサービスを活用したケアマネジメント手法を修得する。	・基本的な理解、ケアマネジメントの各プロセスにおける留意点 ・演習 ・課題抽出、地域の社会資源の検討、多職種協働 ・複数ケアプランの検討、意見交換、グループ発表
			14:00～18:00	4時間	講義・ 演習	ケアマネジメントの演習 ⑥-5 家族への支援の視点が必要な事例	家族への支援の視点が必要な事例を用いて講義・演習を行うことにより、家族への支援の視点も踏まえたケアマネジメント手法を修得する。	・家族の支援に関する知識の習得・基本理解 ・ケアマネジメントの各プロセスにおける留意点 ・演習 ・事例の課題の解説 ・地域包括ケアシステムへの展開
			9:15～13:15	4時間	講義・ 演習	ケアマネジメントの演習 ⑥-6 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、利用者が活用しうる制度に関する知識及び関係機関等との連携を踏まえたケアマネジメント手法を修得する。	・他法他施策に関する知識やインフォーマルサービスの活用に関わる視点 ・演習 ・多職種協働 ・課題整理総括表等の活用 ・虐待の疑いのあるケースに対する対応策
第 7 日	8月18日(木)	8月9日(火)	14:00～18:00	4時間	講義・ 演習	ケアマネジメントの演習 ⑥-7 状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例	状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、介護保険で提供される地域密着型サービス等の活用に係る知識及びケアマネジメントの手法を修得する。	・地域密着型サービスの理解と活用について ・演習
			9:15～13:15	4時間	講義・ 演習	ケアマネジメントの演習 ⑥-8 個人での学習及び介護支援専門員相互の学習	指導・支援、コーチング、スーパービジョン等の違いを踏まえ、自らがそれらを受ける際の心構えや、専門職として不断に自己研鑽を行うことの重要性を理解する。	・個人学習と相互学習 ・スーパービジョンとコーチング ・OJT ・グループワーク
			14:00～16:00	2時間	講義	燕市地域包括支援センターおおまがり金子 朋行	研修全体を通じた振り返りを行うことで、今後の学習課題を認識し、自己研鑽の意欲高める。また、研修受講者間でのネットワークの構築を図る。	・研修の振り返り、研修記録シートの活用 ・気づきや学びを共有 ・意見交換、個人ワーク、発表
第 8 日	8月19日(金)	8月10日(水)	16:00～18:00	2時間	講義・ 演習	地域包括支援センターわしま・てらどまり 小林 美砂子	研修全体を通じた振り返りを行うことで、今後の学習課題を認識し、自己研鑽の意欲高める。また、研修受講者間でのネットワークの構築を図る。	・研修の振り返り、研修記録シートの活用 ・気づきや学びを共有 ・意見交換、個人ワーク、発表
			9:15～13:15	4時間	講義・ 演習	ケアマネジメントの演習 ⑥-8 個人での学習及び介護支援専門員相互の学習	指導・支援、コーチング、スーパービジョン等の違いを踏まえ、自らがそれらを受ける際の心構えや、専門職として不断に自己研鑽を行うことの重要性を理解する。	・個人学習と相互学習 ・スーパービジョンとコーチング ・OJT ・グループワーク
			14:00～16:00	2時間	講義	燕市地域包括支援センターおおまがり金子 朋行	研修全体を通じた振り返りを行うことで、今後の学習課題を認識し、自己研鑽の意欲高める。また、研修受講者間でのネットワークの構築を図る。	・研修の振り返り、研修記録シートの活用 ・気づきや学びを共有 ・意見交換、個人ワーク、発表